

会 議 録

会 議 名	第2回青梅市市民ホールに関する懇談会		
開 催 日	令和3年7月19日(月)	場 所	福祉センター2階 第1・第2集会室
時 間	午前10時～正午まで		
出席委員	委員:伊藤裕夫委員、松井憲太郎委員、米田正彦委員、山本康友委員、橋本研委員、森本真也子委員、小澤順一郎委員、久我匠委員、須田和男委員、根岸英美委員、岩永英文委員、森田美子委員		
傍 聴 人	6名		
報 道 等	4名		
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ○会議次第 ○周辺ホール配置図【資料1-1】 ○周辺ホール一覧表【資料1-2】 ○市内商業施設一覧【資料2】 ○市内文化団体等について【資料3】 ○関連施設の稼働率について【資料4】 		

会議概要

発言者	会議のてん末・概要
(事務局)	<p>(1 開会)</p> <p>本日はお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。 なお、本日、「島崎委員」については欠席の御連絡をいただいております。</p> <p>また、前回ご決定をいただきました「青梅市市民ホールに関する懇談会傍聴規程」において、会議の傍聴を希望される方がおりますので、傍聴人が入室しております。</p> <p>また、本日、報道として「西多摩新聞社」「西の風新聞社」が取材に入っておりますのでご報告いたします。</p> <p>それではただいまより、令和3年度第2回青梅市市民ホールに関する懇談会を開催いたします。本日はコロナ禍であることも踏まえ、概ね2時間程度とさせていただきます。</p> <p>会議に先立ちまして、事前に送付させていただいておりますのご確認をお願いします。</p> <p>(配布資料の確認)</p> <p>また、本日、資料【1-2】について差し替えを配布しております。 資料中の人口規模の欄について、ホール規模との関連性が見られず、紛</p>

	<p>らわしいとの指摘がございましたので、削除しております。お手数ですが、事前配布資料と差し替えをお願いします。</p> <p>以上となりますが、過不足等ございませんでしょうか。</p> <p>それではお配りの懇談会次第に沿って進行を伊藤会長お願い致します。</p>
(会長)	<p>(2 会長あいさつ)</p> <p>おはようございます。先日から、急に暑くなりまして、緊急事態宣言の中で、しかも今週からオリンピックが始まる、非常に大変な時期になってきております。そういった中で、東青梅一丁目地域における活性化事業について、前回に引き続きまして、どういう施設がよいか、そういったイメージについて打ち合わせをしていきたいと思っています。</p>
(会長)	<p>(3 議題)</p> <p>では、次第に沿いまして進めさせていただきます。</p> <p>議題に早速入っていきたいと思いますが、事務局より資料が事前に配られておりますので、事務局より説明をお願いします。</p> <p>説明にあたっては、大きく2回に分けて、前半では資料1、2を中心に、東青梅一丁目地域の活性化や活用の全般について。特になぜ文化施設をつくるのか。まちの活性化だとかさまざまな話が前回あったと思います。そういったところについて気づいた話の議論を前半では、資料1、2を軸に挙げていきたいと思っています。</p> <p>1時間くらいしたら、今度は資料3、4をもとに、では文化施設はどのような規模で、前回も出ましたが平戸間にするのか、あるいはひな壇型がいいのか、ホールの全体のイメージ、どのような使い方がありえるだろうかという意味で、青梅市内における文化団体だとか文化活動をされている方のイメージなのか、あるいは今までの文化施設はどのように利用されてきたのか、稼働率だとか資料を見て検討していきたいと思っています。</p> <p>まず資料1、2を中心にご説明をお願いしたいと思います。</p>
(事務局)	<p>それでは、はじめに、お手元の資料1-1、A3サイズ横の「半径20km圏の施設配置図」と、A4サイズ縦の資料1-2の「一覧表」をご覧いただきたいと存じます。</p> <p>恐れ入りますが、この資料1-1と、1-2につきまして、関連をしておりますので、それぞれ、委員の皆様のお手元に、2枚を並べていただきますようお願いいたします。</p> <p>これらの資料につきましては、前回の懇談会での御意見等を踏まえ、本日までに事務局で調査し、御用意をさせていただきました。</p> <p>まず、資料1-1、A3サイズ横の「半径20km圏の施設配置図」でござい</p>

ます。

中心のやや左上の部分に、今回の事業用地であります、青梅市東青梅1丁目を赤丸でお示しております。

周辺に点在する、「文化・芸術ホールおよびコンベンションホール」については、アルファベットのAの01番から63番まで、また、「バンケット・宴会場」の施設をBの01番から16番まで表示しております。

それぞれの施設規模としまして、図面の右下をご覧ください。

「500席以下」から、「1,000席以下500席超え」、「1500席以下1,000席超え」、「2,000席以下1,500席超え」、「2,000席超え」と、それぞれ500席ずつの規模で括り、丸の大小で表示しております。

また、青字の表記が「平土間ホール」、緑が「ひな壇ホール」でございます。

これら、資料1-1の「半径20km圏の施設配置図」の規模の詳細等を一覧表としてまとめたものが、資料1-2でございます。

具体的な施設の名称と、ホールの形式、最大席数を表示しております。

表中の墨塗りで、太字で記載をしている施設につきましては、ここから30分程度を目安に、自動車または公共交通機関で到着出来るところでございます。

さらに、これら施設規模とは、必ずしも直結するものではありませんが、参考としまして、表の一番右側に、その所在地の自治体毎の今月時点で公表されております人口を表示しております。

なお、地図上の白抜きの線につきましては、JR、私鉄路線をはじめとしました主要の路線をお示しております。

表の最後の部分、【参考】としまして、近年、市議会特別委員会および、担当職員により、視察をさせていただいた施設を掲載しております。

次に、資料2、「市内商業施設一覧」をご覧ください。

こちらは、「青梅市中心市街地活性化基本計画」から一部抜粋をしたものでございます。

直接、市民ホールとの関連性はございませんが、本事業用地への施設整備に対するアンケートにおきまして、「商業施設を」といった回答もございましたことから、市内に点在しております、1,000平方メートル以上、いわゆる大規模小売店を表示したものを参考資料として、配布をさせていただきました。

資料1-1、1-2、資料2の説明につきましては、以上でございます。

(会長)

説明は終わりました。まずは資料について皆様からご質問はございますか。

(委員)

2、3質問とお願いなのですが、まず「周辺ホール一覧表」なのですが、こ

のくくりが、「文化・芸術ホールおよびコンベンションホール」になっているのですが、コンベンションホールとは私が理解しているのは、会議室とか展示会室とかそういったものが主たるホールではないかと理解しているんですね。そうすると芸術ホールとコンベンションホールを一緒にまとめてしまうのは問題があるのではないかという気もするのですが、そのあたりどのようなお考えで一緒にされたのかというのが一つお聞きしたい。

それと、もう1点。立川のステージガーデンは、ひな壇に分類されているのですが、このホールは、メインアリーナは1階の平土間がメインアリーナのはずなんですね。それでコンベンションホールにも使えますという歌い込みのホールなんです。これが、ひな壇の分類されているのは、たぶん2階3階席がひな壇になっているから、ひな壇に分類されたのではないかなと思うのですが、そういった意味も含めて、他のホールのいわゆる平土間の分類の仕方をどういう基準でされたのかを教えてくださいたいのですが。

あともう一点、修正をお願いしたいのですが、A8武蔵野スイングホール、最大席数が625席になっていますが確か108席だと思います。

それとA10三鷹の風のホール星のホール、確かに2つあって、ひな壇と平土間を両方あります。確か風のホールがひな壇で625席、星のホールは平土間で250席のはずです。この点を修正していただければと思います。

ついでにもう1点。市内の商業施設。2番と8番のヤサカ。これはすでになくなっております。8番に至っては完全に別の店舗になっています。これは消していただいたほうがよいかなと思います。

(事務局)

まず、資料1のコンベンションホールというのは私どもとしましても一概に、ホールをひな壇・平土間ということで2つに分類してしまったのですが、コンベンションホール多機能型ホールは、委員のおっしゃるとおり会議や展示ホールで使用できると理解はさせていただいております。

今回、ひな壇・平土間と2つに分けてしまったということでその辺のところ誤解を生じたような表示になってしまったということ申し訳ございませんでした。

2点目3点目の、この立川のステージガーデンですとか、私ども自前で各ホールを短期間の間に職員が、公表されておりますホームページや各自治体、各関係機関から拾い集めさせていただいた中で、ご認識があったとするならばこちらで視点が誤ったものとなってしまったと思います。

再度こちらを精査させていただいて、今日はあくまでもおおまかな分類としてこの近辺にありますということで、こちらの資料をご覧いただきたいと思います。

	<p>ひとつひとつの表記について気になるということであれば、この場をお借りして、修正とお詫びをさせていただきたいと思います。</p> <p>4番目、確かにヤサカさんにつきましては、私どもとしましてもご指摘されたとおり、新町の店舗は別の店舗になっていたり、南口も今まさに解体、工事されているというのを見ております。</p> <p>冒頭の説明で、中心市街地活性化基本計画から引用させていただいたということで、中心市街地活性化基本計画が内閣総理大臣の認定を受けましたのは、4、5年前になります。その時点での、この表がそのまま生きていたということで、現地点でのズレがあるということは申し訳ございませんでした。</p> <p>今、委員からご指摘いただきましたところ、また事務局で再度精査をさせていただきながら、修正させていただいたものにつきましては、次回、皆様にお配りをさせていただきたいと思います。大変申し訳ございませんでした。</p>
(委員)	<p>大ホールと小ホールを併設されているところがこの中でかなりたくさんあるのですけれども、それも出していただけますと。</p>
(事務局)	<p>私も表を見ていてですね、1行1施設としてしまったところがですね、表記の仕方を工夫すべきでした。</p> <p>ホールが1つの施設に対して1行とひとくくりとしてしまったところが誤解を与えてしまった。1施設は必ずしも大ホール中ホール小ホールというのもあってそこにはひな壇もあれば平土間もあるというようなまさにご指摘のとおりだと思います。その辺のところをきちんとした形で表記をさせていただきまして、再度お配りをさせていただきたいと思います。</p>
(会長)	<p>施設の利用に関しましては、他にもギャラリー併設だとか多目的なものが結構増えてきてます。あるいは練習場なんかも結構大きな要素となってきましたので。</p> <p>今日、皆様の中で参考になるようなものを、基本構造といったものを明確にしてより詳しくデータを出していただくようお願いしたいなと思います。</p>
(会長)	<p>それでは、意見交換をしていきたいと思います。</p> <p>まず私から一つ質問を投げかけます。私は青梅市民ではないので、皆さん方から御意見をいただきたいと思います。特に3年前から市民会館が閉鎖されていますので、どこを利用されているのが多いのか、なじみが深いところとか、代替施設としてよく使っているとか、よく行っているとか使っているとかいう話を含めて少し市民の皆様から御意見を出していた</p>

<p>(委員)</p>	<p>だけたらありがたいと思います。</p> <p>私は、最近ではホールを使う用事はなくて、10年前の話になってしまうのですが、習い事をやっていて、その際に青梅のホールを使う機会はなく、羽村のゆとろぎか福生の市民ホールか昭島の市民会館かキララホールとかになってしまうことが多かった。</p> <p>青梅で発表会とかひな壇があるような大きな行事をやったような記憶はないです。</p>
<p>(委員)</p>	<p>私は市民になって長いのですが、以前の市の施設利用システムが文化団体とか団体でないとリクエストができなかったんです。私みたいに一人でやっているような人間はリクエストのしようがなかったんですね。最近では一人でもできるようになってきたみたいなので、変わってきたみたいですけど。</p> <p>そういった中で、私がどんなものを使っていたかという、観客として入ったのは市民会館やたまぐーまでいろいろありますし、たまぐーはオープニングのお手伝いをさせていただいたので、逆にスタッフとしてもお手伝いしています。</p> <p>一番私が利用しているのは、残念ながら市の施設ではなく、住宅メーカーさんのモデルルームを借りて、録音の作業をしています。</p> <p>面白いことにそういったところで録音しても今だとCDが作れたりします。</p> <p>逆に言うと、なんで市の施設を使わなかったのかというと予約システムがすごく使いづらかったというのが一つの理由です。</p>
<p>(会長)</p>	<p>この辺は、後半でも使い方だとか結構重要なポイントだと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>あと、利用者としての立場、お客かユーザーかでも話がずいぶん違うかと思いますが。</p>
<p>(委員)</p>	<p>商工会関係ですと、青梅という地域は西多摩の中心と捉えられた時代がありますので、税務署ですとか都税事務所ですとか西多摩建設事務所ですとか西多摩で一つしかない官公庁が青梅に集中していますので、それに付随した関係民間団体がたくさんあってその総会とかいろいろなイベントや行事が行われておりました。それに一番使われていたのがスイートプラムですね。集まる人数の規模によってどの部屋を使うか、そういう点では大変重宝していた、というようなことです。</p>
<p>(委員)</p>	<p>たぶん私が一番、旧市民会館を使っていたのではないかと思います。</p>

	<p>今、とにかく市民会館がなくなって一番困っているのが我々ではないかと思うのですが。合唱祭というのがあったり、例えば掌理団体というのがあるのですが、児童合唱団、市民合唱団、吹奏楽団などの定期演奏会、これも全部市外に行っています。それから私は、子どもたちを集めて、子どものオペラというのもやっています、これも、ゆとろぎをお借りしてやっているのですが、なかなか予約がとれない。非常に苦勞しています。ゆとろぎがとれなければ、福生の市民会館。それぞれのところに行って抽選で並んで、もちろんそれぞれの市民が優先ですから、そういう状態で非常に苦勞しながらやっています。それから思った日がとれないとか、秋ですと羽村市の文化祭、福生市の文化祭と重なるとその期間は使えないとかいろいろなことがありまして、いろいろなことに苦勞しております。</p>
(委員)	<p>青梅は、広域連携ってよくやるんですけど、他の市と連携を保って、先ほど言った市民優先ではなくて青梅市民も優先できるような地域とかそういう連携はされているのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>西多摩地域広域行政圏というのがありまして、この中で市民の相互利用としては図書館の貸し借りはできているんですけど、ホールの相互連携はそういった形では今のところはできておりません。</p>
(委員)	<p>総合病院はどういった形になっているんですか。</p>
(事務局)	<p>医療施設につきましては、市民だとか市民でないとかいうくくりは当然命が最優先ですので、そこはいらっしゃった患者はきちんと診察することが大前提でございます。</p>
(委員)	<p>総合病院は、西多摩の中の中核の病院ということで。</p>
(事務局)	<p>中核病院でございます。ですが、青梅市民ではないからということとはございません。</p>
(委員)	<p>例えば、今度総合病院が工事、建て替えをする。これは西多摩全域でお金を出すんですか、青梅市でお金を出すんですか。</p>
(事務局)	<p>青梅市でお金を出します。</p>
(委員)	<p>先ほどの合唱祭の話なのですが、実際使われるときって、練習で使われる、本番間近のゲネプロで使われる、本番で使われるという3段階なのでしょうけど、そのときの部屋の規模とかどういったものが理想的なのでしょう</p>

	<p>ようか。本番に関してはどのくらい客がどれだけ呼べるかという話になるのでしょうか。</p>
(委員)	<p>だいたい大ホールを使うことが多いのですが、練習ではゆとろぎですとリハーサルルームがあって、そちらを使ったりしますね。それからゆとろぎの地下に平土間のパーティができるような広い部屋があるのですけれども、そこをお借りしたりですか。音楽室とか、わりと色々な部屋がありますので、ぶちぬきができる会議室ですとかそこら辺をお借りしてリハーサルとか練習はやります。</p>
(委員)	<p>リハーサルや練習に関しては、ホール仕立ての小屋がなくてもどうにかできるということですか。</p>
(委員)	<p>結局それを借りるとかなり高額のお金が発生するものですからそれはできないということですか。</p>
(委員)	<p>逆に言うと、クラシック系のリハーサルルームがあると最高ということですか。</p>
(委員)	<p>そうですね、ただステージでリハーサルするかどうかというのは…。</p>
(委員)	<p>ステージではなくて、響きをクラシックに合わせたようなリハーサルルームがあればうれしいなという考え方ですか。</p>
(委員)	<p>そうですね。</p>
(委員)	<p>私は、職場が東大和市と武蔵村山市、あと立川市のほうなのですが、食品衛生法のご飯屋さんや食べ物屋さんをやっているひとの集まりがあって、武蔵村山の市民会館とか東大和市民会館とかでもありました。 あと、こういう会議室みたいなところもあって委員会の仕事もありましたし、今年9月にたましんRISURUホールに行くのですが、会社の健康診断を受ける予定になっています。</p>
(委員)	<p>会議とかミーティングとかそういう使い方が多いですか。</p>
(委員)	<p>はい。</p>
(会長)	<p>質問なんですけど、交通手段として、JRや公共交通機関、乗用車を使う方がいらっしゃると思うのですが、自動車が多いんですかね。</p>

(委員)

自動車が多いんじゃないですか。

(委員)

ユーザーと主催者側で全然変わっちゃいますね。ユーザーというかお客として行く場合は公共交通機関で、運営する側だと車じゃないと動きがとれない。

(委員)

主催者側としてとか参加者側とか、いろいろな立場でお話したかと思うのですが、私は半分以上のホールは利用したことがあるのですが、基本的に自分が行くときって楽しみにして行くので、どこかでみんなでご飯食べて帰ってくるみたいなことがあると公共交通機関で行くので。あきる野のキララホールはほとんどないんですね、やっぱり車で行かなければならない。だから、青梅線沿線沿いの羽村か福生と昭島、立川とそういう感じになるかなと思っています。

ただ、青梅市ってご覧のとおり広いところなので、さっき言った市民の文化活動というのは、ホールとかほとんどこういうところではやっていないんですね。市民センターとかそういうところに小さな練習できる場所があったりピアノが置いてあったりとかというところがあるので、そういうのがたくさんあります。

そういうものがもう少し集まった方がいいなってことで青梅の文化交流センターはそういう場所になっているんですね。練習場所がいっぱいあるところになっている。

今一番お困りになっているのは、いわゆる発表する場所、音響施設も含めてきちとしたものがないというのがお困りだと思うんですけど。

それが一方では、近隣でいうと武蔵村山の市民会館は本当に閑古鳥が鳴いています。それから、瑞穂スカイホール、これも使い手がなくて困っている。キララホールも音楽専用ホールで成り立ちましたけど、最初はすごい音楽をいっぱいやったんですけど、結局クラシック専用のコンサートホールなのでお芝居をやると残響でとても台詞が聞こえないということになり結果的には音楽だけで、今は小中学校の学校祭の発表会をやってらっしゃるんじゃないかなと。電気音の発表会ってなかなかやりにくいんですね。

一時期、西多摩地域には福生の市民会館は大ホールだし、キララホールは音楽ホールだし、西多摩地域の広域行政圏でいろんな役割のホールがあっというんじゃないかという話が出たことも昔あったと思うんですけど。

なので、私たちが一番使っているのは文化交流センターで、練習として使い勝手が非常に良いので、こういう場所がもうちょっとあったらいいなと。文化交流センターは実は、今はコロナ禍ですけど、稼働はいっぱいな

んですよ、どこの練習場所も。こういうところがもう一つあると。

それとしっかりと発表できる場所みたいなことも必要なんだろうなと。

それから、もう一つ。そういう文化活動で、文化交流センターで一番良かった政策だと思ったのが、飲食が可能なんですね。飲食可能なホールというのは文化活動する人間、お祭り騒ぎをする人間にとってはすごく大事なところで、それができることの良さというのがこの福祉センタースイートプラム、ここもどれだけ使ったかわかりません。今年、成人式はすごい困ったと思ったんですけど、成人式は必ずこのスイートプラムで全中学校の子たちが交代で同窓会をやるんですね。

そういう意味でのコンベンションホール的な要素というの、ここがなくなることによって両方必要なのかなと思います。

(委員)

私は、専門は建築設計です。ホール建築にも、ちょうど青梅市と同じくらいの規模で群馬県の桐生市で、多目的ホールを設計いたしました。5年半ほどかかりまして、その中で、今おっしゃったホールの音楽用途とそれ以外の用途で同時に多目的ホールで行うにはどういうふうにしたかということが参考になるかと思しますので申し上げたいと思います。

残響加減装置というのがありまして、装置が天井から降りてくる。それで残響音を変えるというものです。それから、クラシックコンサート用に音響フェクターという装置をつけまして、それは奈落に使わないときはたたくんで下ろすようなそういった装置をつけました。1,500人ほどの規模で、ひな壇式のホールで音楽専用ホールにもなって、舞台にも使える専門性の高いホールを設計したことがあります。

そういった情報をお伝えするというのと、ひな壇ホールと平土間ホールが仕分けしてありますが、私が設計したのはひな壇ホールですね。どこの席からも同じように舞台の隅々までが見える。そういうホールですね。今日本で作られている多目的ホールはおよそそういう形式のホールが多いかと思えます。

一方で、平土間ホールで、少ない規模のホールが書いてありますが、ヨーロッパや北米の事例をみると、1月1日のニューイヤーコンサートをご覧になったことはありますか。ウィーンフィルムホールですね、あそこは1,000人以上入りますが平土間なんですね。ボストンシンポジウムやアムステルダム コンセルトヘボウは平土間ですね。平土間というのは大きなホールでもありますね。

ほかに演劇系のオールでも、ダンスをしているような場面もありますから、平土間の形式も大きな規模のホールも存在している。

ただ、現代のホールの作り方のようにすべての席から隅々まで見えるようなことを求めてしまうとどうしても今の日本のひな壇式のホールのような作り方、設計の仕方になってしまうということなんですね。

<p>(委員)</p>	<p>今の話の中で私も思い出したのですが、私の好きなホールでイギリスのロイヤルアルバートホールの1階は平土間です。当時のホールは平土間のホールが多くて、なぜなのかと考えてみましたが、当時は社交ダンスなどの踊りをやったり、演劇をやるために1階は平土間になっている。その平土間に加えて、ひな壇式の客席を持つホールが多かった。</p> <p>先ほどの残響可変装置についても、身延町のホールで入れたが、入れた後の運用される方が実際に使うかがキーになっていく。</p>
<p>(会長)</p>	<p>今の御意見で、一つにホールといっても実際に自分たちが使う、発表したりするケースとその前の稽古をしたりといったケース、それから聞きに行く、見に行くといったケースと様々あると思います。地域の施設としては特に文化に関係なくとも会議ですとか、成人式などもあります。使われ方のイメージは後で話し合いたいと思います。</p> <p>商業施設についてはアンケートで青梅にほしいとの意見があったりしましたが、近隣の河辺に大きな施設が2つもありましたので本当に必要なのかその辺についても皆様から率直な御意見をいただければと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>音楽ホールの話でもよろしいでしょうか、瑞穂や武蔵村山のホールの稼働率が低いとの話がでましたが、近隣のホールの稼働率がわかれば調べていただいて、教えていただければと思います。</p>
<p>(会長)</p>	<p>その辺の稼働率も並行してわかるといいですね。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>西多摩地域、近隣の稼働率を調べさせていただきまして、次回ご提示したいと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>稼働率の話がでましたら、その施設がどのような運営をしているかが重要になると思います。なぜゆとろぎの予約が取りにくいのかということ、やはり稼働率が高い。それはホールの設計の段階からどのように使っていくかと市民の参画によりその人たちが入って、かなり検討していると思う。前の市民会館は皆さん借りに来てくださいと待っていて、そうすると借りにくいなどもあると思います。この場ではどこまでやるのか後でお聞きしたかったのですが、そこまで見通しを立ててやらなければ、せっかく建てても誰も使わない、宝の持ち腐れになってしまう。そこを考えて折り合いをつけていかなければと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>稼働率についてお願いしたいのですが、分母が年間になっているが、実際に使いたい人は予約がとれないといっている。皆さんの使いたい日が</p>

<p>(委員)</p>	<p>重なっていると思うので、シーズンごとなどの稼働率がわかると違う見え方するのかもしれませんが。</p> <p>私の働いているところは稼働率は比較的高いです。ホールの他にスタジオもありまして、スタジオにあっては稼働率がほぼ100%みたいな形です。計算の仕方もありまして、ホールについても7割程度は埋まっていると思います。ただ、先程来、予約が取れないとの話がありますが、基本的には市民の方の予約は土日祝日に集中しているので、例えば日曜日催しするのであれば、土曜日リハーサルをやる、あるいは金曜にリハーサルをやって土日で使うかっこうになると思うので、すると月の1日に申込みに来る方は月でいうと4回程度の枠に集中します。それ以外は申込日には空いていると思います。私のところではそれ以降、録音業者ですとか、近隣の企業さん、学習塾などがホールを様々な形で利用しています。市民の催しでもプロを呼んで、例えばセタコンサートですと7日に利用するので、休日に限らず申し込むようなものもあるので、利用率といっても申し込む側からの利用率と考えると、狭き日程をどう抑えるかになって、ホール全体の利用率とはずれがでるんですね。</p>
<p>(委員)</p>	<p>なので、分母をわかりやすくしたほうがいいのかと思います。</p>
<p>(会長)</p>	<p>秋にはどの自治体でも合同文化祭をやっており、その期間は一般の方は取りづらいのかと思います。そのようなデータを全部出すのではなくわかっている方からの発言からイメージを共有してもらえればいいのかと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>私の所では、中学校の合唱祭がありまして、学校によっては日曜日にやりたいとの意見もありますが、2002年に会館して以来共催の形で平日お貸ししている。共催なので、申し込みではなくあらかじめ協議をした上で9校が平日に順番で入れている形となります。</p>
<p>(委員)</p>	<p>合唱祭もそうですが、オーケストラの鑑賞教室だと思いますが、これからのことを考えると平日は高齢者の催し物が増えてもいいのかと思います。そうなれば平日の稼働率も上がると思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>運営の仕方によって平日にも休日にも限度はあるとは思いますが、誘導は可能だと考えます。</p>
<p>(委員)</p>	<p>この会議自体が懇談会との形なので、一つの答えを出すものではなく、広い範囲で意見を出してもらおうものであるとは思いますが、とはいえゴ</p>

<p>(会長)</p>	<p>ルといいますか、大体どのような日程で間隔で何回ぐらい、また、ひとまず意見を集約するにしてもどのような範囲でやるのか今日ではなくても出してもらおうと、他の皆様も参加の意気込みが絞られてくるのではないかと思います。</p> <p>事前に事務局と話している中では全体で4、5回だと。また、懇談会となるので非常に範囲が広くなり、運営の仕方だとか規模などの文化施設の形態の話とか、今後、基本計画や運営計画を作るうえでのイメージのコアになるようなことを出しておく必要があると思います。どこかに焦点を絞ってアウトプットを出していくのではなく、ざっくばらんに広い議論を重ねていく、それが、今後の基本計画作る上でつながってくるものだと考えています。私自身も最終的にどのような報告書にすればいいかは気にはなっているところです。このあたりも事務局が考えていくのではなく、皆様からの意見をもとに、今後、この施設をよりいいものにするための話ができると思います。文化だけでなく、バンケットの話やコンベンションの話も含めて考えて行こうと思いますが、事務局よろしいですね。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>はい</p>
<p>(委員)</p>	<p>私も気になっていたことなのですが、前回の懇談会でも話題になりましたが、この懇談会が青梅市の文化のことを考えていく必要があるとか、それを未来に向けてどのように高めていくのか、考えるきっかけになる。一般市民のかたが志をもって参加してもらい一緒に議論できるのは非常にありがたいことだと思います。</p> <p>6月の24日に青梅市と国立音楽大学が芸術音楽の振興を図るために連携協定を結ばれたとありました。これも我々ホールのことを考える人間にとってとても大きな励みになると思って、市長と国立音大の学長が並んで写真に写っているのを見て、市長さん少し考えていただけているのかと思います。一つ気になっているのは4年前に旧市民会館が閉鎖されてから今まで、色々な議論がなされているはずですが。一番最初は平土間の1,000人で、皆さん自分で椅子を運んでくださいなどがあってブーイングだったのですが、その話が出てから、平土間ですが可動式の椅子が出てきて、音響もいいものが出てきて、色々な技術が進歩しているので、そういったものに青梅市の考え方が変わったのかと思いますが、その4年間の議論されてきたことはここでは出てこないのか。こういったいきさつでこの懇談会が開かれるようになりましたのは、前回出なかったですね。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>前回1回目とアンケートを含めお示しさせていただきました。あとはその4年間のちょうど中間となる平成30年3月に策定しました、東青梅一</p>

丁目地内諸事業用地等利活用構想をメインに説明させていただきました。いろいろと出ました議論については前回の中で説明には出ておりません。先ほど伊藤会長もおっしゃってましたが、この会議でいろいろな御意見をお聞きして、それをきちんとした形で市長へ報告させていただいて、一定の方向性を市長が決める材料にすることが事務局での使命と考えております。皆様からもしホールを作るのであればどのような形式、どのような規模、平土間、ひな壇の2択ではなくいろいろな御意見を事務局として集約をして報告をさせていただきます。

今まで過去の事細かな議論を立ち返ってフィードバックをするというよりも、現時点での皆様のお考えを聞いていきたいと思っております。なので、この4年間での出来事をあえて皆様に投げかけることは考えておりません。また、今年度の予定は3月までに5回程度は皆様とこのような形で懇談会を開催させていただいて御議論いただいて、より多くの御意見を伺っていききたいと考えております。

(委員)

市議会の委員会の中でもかなりいろいろ議論されて、蓄積があると思いますが、それとは事を別にして議論する形でよろしいでしょうか。

(事務局)

市議会特別委員会でも御議論いただいております。6月の市議会でも、前回の懇談会の内容を集約させていただきまして、特別委員会へ報告しております。懇談会を開催して御議論いただいているとのことを報告しております。市議会の方でも懇談会の内容を都度報告してほしいとのことです。議会と懇談会と事務局との形で進めさせていただいております。

(会長)

前回の資料でスケジュールが3年間後ろ倒されています。その辺は先ほど委員が指摘なされたことだと思います。このへんも可能な範囲で共有して進めていただければと思います。

時間の関係からも、事務局から資料3、4の説明をお願いします。

(事務局)

それでは、続きまして、資料3および資料4につきまして、御説明させていただきます。

まず、資料3「市内文化団体等について」をご覧いただきたいと存じます。

表の1でございます。

こちらは、令和2年度時点での、青梅市文化団体連盟に加盟をされている、それぞれの団体名と、その団体数、そして、それぞれの会員数の合計をお示したものです。

また、2の「掌理団体」につきましては、「青梅市教育委員会掌理団体育成要綱」の規定にもとづき、「青少年および成人の情操教育の一環として、

教育委員会が掌理する団体”で、ここに記載の、「市民合唱団」、「青少年吹奏楽団」、「児童合唱団」の3団体で、右側には、それぞれの団員数を掲載してございます。

次の3の「生涯学習サークル団体」でございます。

こちらは、「青梅市生涯学習サークル登録制度実施要領」の規定にもとづき、青梅市内において生涯学習活動を行う市民団体の情報を生涯学習サークル情報として登録をしている団体数で、令和2年度時点で135団体となっております。

登録をされております団体の一例を記載しておりますが、いずれも、その活動において、一定程度のホール規模は要しないものと考えられます。

最後に、資料4、「関連施設の稼働率について」でございます。

こちらは、令和元年5月にオープンをしました文化交流センターの建設に伴い、閉鎖または解体をしました、「釜の淵市民館」および「市民会館」の利用年度の最終年度までの数年間につきまして、それぞれの利用回数、利用者数と、その稼働率の実績を上段にお示ししております。

そして、下段には、新設しました文化交流センターの令和元年度の稼働の状況を示しております。

なお、この資料の右上、【施設基本情報】を表示しております。

「釜の淵市民館」につきましては、研修室・音楽室ともに、平土間、市民会館につきましては、ひな壇式でありました。

文化交流センターは、平土間式となっております。

資料の左上からご覧ください。

釜の縁市民館につきましては、上の表「研修室」が、各年度約70から80%の稼働率、また、次の「音楽室」につきましても、約60から70%強の稼働率となっております。

また、市民会館につきましては、約30%から40%強で、1回当たりの利用者数では、市主催の催しで平均が約120人から170人程度、各団体利用の催しで、100人弱から約170人程度でございました。

一番下の、新設をしました文化交流センターにつきましては、令和元年度、多目的ホールが51.2%の稼働率、1回当たり平均38人といった実績でございます。

大変、雑ぱくではありますが、資料2から4までの説明は、以上でございます。

説明は終わりました。まずは資料について皆様からご質問はございますか。

まずはこの資料についてご質問はございますか。

(会長)

(委員)	<p>今、平均とおっしゃいましたが、年間の回数を利用人数で割った数になりますが、実際に200人使っていたとか、人数の大きな枠で数字はでませんか。例えば、文化交流センターでは200人から満席は何回か、50人未満は何回かとか、単純に平均してしまうとそのような数字が見えない。</p>
(事務局)	<p>単純な平均値について記載をしておりますが、各数値についてはわかる範囲で次回ご提示します。</p>
(委員)	<p>1回あたりの利用者数については主催者の人数なのか観客の人数なのかそこらへんはどのようなのでしょうか。釜の淵の研修室は主催者側だと思いますが、ホールについては意味合いが変わってくると思います。どのような作りになっていますか。</p>
(会長)	<p>1日3回使用の形で稼働率を出してますね。おそらく午前使用の稼働率は低く、土日と平日でも大きく違うと思います。平均ですと30%台と低く見えますが、土日だと70%とかに上がると思います。その辺も目に見えるといいとは思いますが。</p>
(委員)	<p>使い方でもホールで録音関係とかで使えば客はゼロでしょうし。</p>
(会長)	<p>市民会館で言う使い方イメージですと文化関係と文化関係以外、文化関係であってもいわゆるプロの楽団や劇団などの興行であったり、合奏団等が合奏祭で使ったり全然違うと思います。その辺のイメージも見えれば良いと思いますので、よろしく願います。</p>
(委員)	<p>資料3を見ますと文化団体連盟あるいは教育委員会が掌理しているような団体以外で使っているかたも多くいるとは思いますが。文化団体連盟でも活動内容により、ホールを使う団体と、会議室のようなものを使う団体と分かれてくると思いますので、団体によってホールへの要望も全然違うと思います。合唱連盟などが圧倒的に利用回数も多くて中心になっていると感じますが、解説をお願いできますか。</p>
(委員)	<p>先週に文化団体連盟の集まりがあったのですが、コロナの関係から新しく入れ方が減っており、児童合唱団も募集を2年間やっておりません。他も高齢者が多くおやめになったりしてこの数字がどうなのかとも思います。あとは本番でホールを使う団体とそうではない団体があって、新しいホールを期待する人とそうではない人とで温度差があるの事実です。</p>
(会長)	<p>少し意見交換を進めていきましょう。</p>

<p>(委員)</p>	<p>まだ、発言されていない方がからどうぞ。</p> <p>私は施設についてはよくわかりませんが、話を伺っていると予約が取れる、取れないとの話が出てますが、ゆとろぎの話が出てましたが、単純に需要と供給で考えると足りないと思います。なので、ゆとろぎと似たような施設を考えるのが妥当なのではと思います。ただ、羽村と青梅なので、2つの施設ができた場合に両方とも稼働率が減ってしまう問題がおきないかとも思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>私は利用する立場なので、イベントなどをやられるときは、イベントの携帯によっては趣味でやられることなどもあると思います。でも、あまり青梅に住んでいてホールに行くことはありませんでした。なので、趣味に応じて人が集まってくるようなホール建てると思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>資料にある生涯学習サークル団体135団体の内訳が文化団体連盟と同様に非常に重要になると考えます。青梅のいろいろなところでやられている文化祭などもこのような方々がかなり活躍されています。ダンスや音楽や太鼓などの団体はかなり多いです。いろいろな市民センターでいろいろな事が行われているようなところなので、文化交流センターはいろいろな趣味の方がいて、コロナの前では平日の昼間も会場が塞がっていて、それはほとんど高齢者の方で、皆さん、詩吟を楽しんだりいろいろな事をなさっていて、人生100年時代において市民が高齢になっても自分が楽しいことができる場所を求めると思います。その人たちが集まれる材料がこの市民ホールにあるといいなと思います。文化交流センターではこんなことをやりたいと思った人が、いろいろな人と出会い、情報や人とのネットワークがある市民ホールが建って、いろいろな規模のことができたらいいなと思います。</p>
<p>(会長)</p>	<p>市民の方では自分ではやらないけど、いい音楽を聞きたいとか、もしくは見たいといった趣向のかたもたくさんいらっしゃると思いますし、自分たち自身で活動しているので発表したい、稽古したいといったことを求めている方もいらっしゃると思います。また、文化以外の活動にも使いたいといった方もいらっしゃると思います。文化活動であっても書道などホールではない施設のほうがいいという方もいらっしゃると思います。これをすべて盛り込んだ施設にするのは大変なことだと思いますので、その辺の中から、文化施設を作るのであれば、ホール型のものになるのではないかと思います。見に行くほうを考えるか、自分たちが使うほうを考えるか、使いやすいという意味においても違うと思います。使うにしてもプロが使うのと市民が使うのでは大分差は減ってきているとは思</p>

<p>(委員)</p>	<p>いますが、若干違うと思います。この辺も御意見、感想をお聞かせいただきたいと思います。また、先ほど委員から出ました、近場のホールとの競合関係がプラスになるのか結構大きいと思います。</p> <p>先ほど出ました、ゆとろぎの稼働率が高いことを考えるとおこぼれをもらわないですが、そのような施設をを作ると非常に効果的な気がしますし、もし先ほど出たように休日しか使われないのであれば、例えばホールとして使うの休日等だけにして平日は商業施設に貸すとかそのような方法もありだと思えます。あとは、青梅市や西多摩の内需だけでは拾えないのであれば、若い人もいろいろな音楽活動などされている方がいますので、外から若い人を呼んでみるなどしないと、地の利的にゆとろぎや福生には勝てないのでそのようなこともありかと思えます。もしそのようにするのであれば、ホールのあり方にも関わりますが、予約が取りやすいとか、ネットで取りやすい、SNS で情報発信するのもありかと思いました。</p>
<p>(委員)</p>	<p>文化団体の中に軽音楽の団体は登録されていません。そのような人たちは自分たちで企画してストリートでやったり、定期的に青空コンサートを実施したりしています。そんな方々も本当はホールでやりたいと思っています。そんな方々も利用できたり、意見を吸い上げるようなことができないかと思っています。フェイスブックでそのような人の意見を吸い上げてみたんですが、なかなか意見としては出てきてませんが、好きな人たちは多数いますので、そのような人たちを巻き込んでできないかなと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>運用の話ですが、委員は文化交流センターの音響のボランティアに登録されています。そのような方が何人かいて、自分で企画できるような人がいろいろいます。富良野のホールの運用だったと思うのですが、ホールを使う共催の事業を市民に募集して、それに市民が応募して市民に好きなことをやるという企画なのですが、この企画は半額助成して曜日ごとに業種ごとに人たちが集まって、土建屋さんが集まったり、看護師さんが集まったり、みんなが何か楽しいことをやろうとする場に使うのであれば市が助成する制度でかなり回ったと聞いてます。先ほど若者の話でも例えばカヌーのイベントとホールのイベント重ねてできないかとか、いろいろなものが連携できるような企画が盛り込めるような運営はどのようにしたらいいのかを考えられればいいと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>キラリふじみは2002年にできまして、私は2010年から館長を始めています。なので、できてから8年ぐらい市民の人たちの活動が行われていて、そこに入って行って、資料で提示されているような団体が文化祭を行</p>

ったり、ダンス教室の方やバンドをやっている方がスタジオを利用して教室をやったりしていました。そのようなことを自分なりに統計を取ってみると、常連で活動している人たちは多くても2、3千人くらいで、当時人口11万人くらいでしたので、残りの97%くらいの人たちは合唱祭の時に1回利用するとか、それ自体が非常に貴重な経験になっているとは思いますが、日常的に文化会館を利用することはなっていない。先ほど委員からあったように残りの97%の方々を利用者というようりは開館に関わるといった参加意識をもっていろいろなイベントやっってもらう方向に持って行かなければならないと考えました。その入り口になるようなイベントをやりまして、例えばサーカスや大道芸をもってくるのはこちらがやるのですが、それに併せてマーケットを商工会の方々に開いてもらったり、市の産業部門も関わりながら、地元の農家であったり商店の方々に参加してもらうイベントであったり、市民参加の合唱祭で軽音楽方々にも参加してもらいながら、市民の手作りのコンサートをプロのサポートのもとやりました。委員がおっしゃるようにどのようなスペースを作ることは重要ですが、一定程度、運営で市民の人材を活用するといったやり方を取ったりしました。前半の議論でも資料も見て、青梅の立地を考えると、奥には奥多摩町や日の出町が控えています、最終的には外からもあるのですが、まずは市内の方の可能性を持っている有効人材を掘り起こすことが重要だと思います。また、同時の文化団体の活動をうまく支えてあげられるような運営のあり方、スペースの作り方が重要だと思いました。

(委員)

運営の仕方はとても重要ですが、その前にホールですが、青梅線沿線は立川を見ている。その人たちを青梅に振り返ってもらえるようなホールが必要だと思います。それから運用になるかと思います。もちろん市内の人たちに活用してもらえるようにする必要もありますが、青梅にこんな面白いものがあることを発信していくようなことができるかと思っています。

(委員)

活用の話が上がっていましたが、市民ホールを建てるとした場合に多目的でやれることは重要だとも思います、多目的でやるにしても多少のブランディングみたいなものをしていけば振り向いてくれる率が上がると思います。例えば文化交流センターを含めて文化交流センターのブランディング、今回の市民ホールについても使い方を完全ブランディングしていくと決めるのではなくて、大まかなコンセプトみたいなものをそれぞれで設定していけば、市全体としてまとまりがあって面白いのかなと思います。

(委員)

先ほど商業施設の話がありますが、河辺より西側はほとんど駅前にス

	<p>ーパーがなく、青梅駅前のスーパーもなくなってしまい、大変困っている人たちがいます。市役所がここにできました。福祉センターがあります。ホールもあるなら、東青梅は市民の憩いの場になるといいなと思っていて、青梅駅周辺のまちの駅もホールができればこっちにこないかなと思ったり、東青梅のまちは商業施設といってもあまりピンとこなく、まちの駅であったり、市役所であったり、市民にとっての憩いの場のような空気感でできるといいなと思います。</p>
(会長)	<p>先ほど委員からもありましたが、別の自治体でのこのような回で一度プレゼンをしてもらい、農業ですとか産業の人たちを含めてサーカスを軸にして店を出して、興行していく。広い意味での生活文化ですが、その中でホールでは音楽をやったり、広場では大道芸を行ったり、様々なものが複合されております。なんとなくそのイメージが合うのかと今日話を聞いて思いました。当然、素晴らしい芸術によって人を呼ぶという手もあります。それを否定するわけではありませんので、懇談会ですからいろいろな意見があっていいと思いますので、是非、遠慮なく意見をお願いします。また、専門家として、他の事例などありましたらお願いします。</p>
(委員)	<p>事例ですが、福島県の須賀川市にホール的な施設がありまして、そこでは、あえてホール以外の施設が複合されていて、スタジオ、コンビニ、図書館や子どもの屋内の遊び場ですとか、スタジオと図書室が隣り合わせになっており図書室からスタジオが見えるような作りになっています。市民の方がぶらっと来て、くつろぐ、屋外のまちのような施設ができています。これは建築業界では今、有名な施設です。</p> <p>これと相反することを申し上げますと、ホールの複合施設を設計して思うのは、建築では複合するとコストが高くなる。例えば、ホールとホールをくっつけるのは、非常に大変で、遮音的、防音的にそれを達成するのは建築的な工夫と設備的な工夫が必要ですとか、また、規模が大きくなると防災設備が多くなったり、複合すると建築的なエネルギーが多くなると思いました。</p>
(委員)	<p>ホール以外の場所でフリーで集まれる場所が結構トレンドで、誰もが予約するのではなく、集える場が結構多いです。私もあちこちのホールに行きますが、悲惨なホールも多いです。建設費も大切ですが、運営の仕方もあります。その後の維持費がそれなりのお金をかけなければ、最初だけ良かったというのは結構多いので、やるのであればそこまで考えて動かないと実感として感じております。</p>
(会長)	<p>私も実例をあげますと 20 年くらい前にできた、静岡県の袋井市に学</p>

遊館という施設がありますが、駅から結構離れていて不便な場所なのですが、敷地が広がったので、スーパーがまず建ちました。それから文化施設の中にはプールがあって、それから図書館があって、ホールがあって、展示スペースがあるといった施設なのですが、ホールといったものに関しては高い稼働率ではないのですが、いろいろな人が出入りする、一種のまちの中で新しい居場所ができてきた形で成功してきたものです。今、図書館との併設が多いですね。図書館は予約などが必要なく、文化施設においてもチケット買わなければいけないなどのイメージをなくさないとダメかと感じております。個人的な感想ですが、このような施設になればいいなどの御意見もございましたら言っていただけるといいのかと思います。

(委員)

岐阜県の可児市の文化センターは催し物がなくてもひとが集まってくる。新聞がおいてあったり、音楽が聴ける場所があったり、話をする相談員がいたり、ホールの正面に池があって子どもたちが遊んでいたり、そこに行けば大丈夫だよといえる場所を作りたいと、その館長さんがホールを人間の家にしたいと、人間が人間としていられる場所にしたいといったことでやってらっしゃいました。それには文化とはなんだということはこの場所では議論できればと委員が前回おっしゃってましたが、文化条例とか文化とはどういったものかを考える青梅市の指針があってそれが青梅の中の歴史とかお祭りとかとつながったものがある、ホールもそれに沿って作ったということができるといいのかと思いました。

(委員)

文化をテーマに見たときに、同好の仲間で話したときに、前回もできました昭和レトロというキーワードは当然出てますし、映画というキーワードも出てきますが、もう一つ出てきたのが、青梅の文化と言っていいのか、二代目の人が頑張っているのではないかと、代を引き継いで若社長が頑張っている。そんなまちではないのかとの意見ができました。そのような人たちが、たまぐーもそうですが、ぱっと来て一緒に何かできる活動拠点にできればいいと思います。そういった意味も含めて、過去の文化を大事にすることもいいのですが、これからの青梅の文化を創り出せるような場所というのがホールのコンセプトではないのかと思います。ホールにしても市の施設は最低でも50年は使うでしょうから、1度できてしまえば、良くも悪くも50年は使うのですから、新しい青梅の文化創り出せるような空間ができればいいと思います。

(会長)

新しい文化のイメージはありますか。

(委員)

ありません。それが新しい文化だと思います。踏襲されるかもしれませんが、映画がもっと伸びるかもしれないし、これから若い人たちが50年間使

	<p>っていく中で何か新しいことができればいいなと思います。若い人にはいろいろなツールもできるしもっと何か新しいことができるかもしれません。</p> <p>あと、コロナによって配信の利用価値が出てきてますので、配信拠点なんかも一つのキーワードになるかもしれません。ホール規模は小さくても、配信で稼げればいいと思います。</p> <p>（会長）</p> <p>韓国の釜山に小規模ですがユニークな文化施設があります。そこはスタジオが4つくらいありまして、音楽専用、映像専用とか、そこで若い人が集まって自分たちの演奏をCDにしたり、youtubeに上げるものをつくったり、まさに発信基地でコロナが流行する前からやっていて、その背景にあるのはK-Popであり、情報化が進んで行く中で、じゃあそのような文化施設を作ろうとなっておりまして、この辺は日本に比べて非常にフットワークが軽いなと感心しました。</p> <p>（委員）</p> <p>そうすると、ツールは皆さん自宅でもってますので、例えばドラムでしたらドラムの録音ができるスペースを提供できるようにするような事が重要なのかと思います。</p> <p>（会長）</p> <p>若い人の中ではダンスも盛んなんですよね。</p> <p>（委員）</p> <p>そうですね、ダンスも盛んですね。塾でアルバイトをしているのですが、部活とかではなくて、ダンスの習い事をしている子も結構います。</p> <p>（委員）</p> <p>委員がたまぐーでコーディネーターをやられていますが、オープンから毎年1回文化祭をやっていますが、若い人たちのエネルギーは結構あって、私は普段、高齢者を相手に合唱の指導なんかをしていますので、あまり感じなかったのですが、青梅の若い人たち結構やるなと思いました。そのようなチカラをうまく活用するといいものになると思います。それと前回もでしたが、青梅の魅力といえば自然だと、これは絶対に他にはないもので、東京芸術劇場ではないですが、舞台の後ろが開けば奥多摩の山々が見えるとか、他にない魅力を考えたホールができればいいなと思います。普通に四角いものを建てるのではなく、地の利を活かしたものであると魅力になると思います。</p> <p>昔、河辺にあったレストランは素晴らしいロケーションでそこで音楽会をやったりしました。あのようなものができるとう本当にいいと思います。ホールではなくてもみんなが集まる部屋から奥多摩の山が見えるとか夕焼けが見えるとか、ちょうど崖の上に立つのですから。</p>
--	---

(会長)	<p>出尽くしましたかね。他に今日はこれだけは言っておきたいとか、次回はこの辺を議論したいとか提案があればお願いします。</p>
(委員)	<p>市民の方々、あるいは行政の方から文化の話が皆さんから色々出て、青梅の魅力は自然とも出ましたが、青梅の文化的なアイデンティティはどういったものなのか、この懇談会でやることではないのかもしれませんが、知りたいとは思いますが。富士見市でも行政的には文化的なものはほとんどないと言っておりましたが、文化会館ができた経緯は駅に近い新興住宅地にある公民館と、農地に囲まれている地区にある公民館で社会教育活動が非常に盛んで、そこで両地域の市民が文化活動をやっている、市街地の市民の人たちの動きが文化会館の建設につながったと聞いております。新しい市民の人たちは昭和30年ぐらいから住み始めた方で、農村地域の人たちとは交わりがなかったのですが、文化会館を作ったときに少し交流が出てきたというようなことがありまして。生産性が低い富士見市の農地は、昔は沼地みたいなところで、昔は海だったような歴史があります。青梅に比べれば自然という意味でも非常に魅力が薄い地域なのですが、そのように水辺に集まって、農業の地域として発展して、今は新しい市民も加わって、その町のアイデンティティみたいなものが、例えば文化会館の緞帳に描かれていたり、池が建物の中に配置されているのですが、そういったものがまちの成り立ちに深くつながったような形で建設的にも運営サイドにも最終的に活かされていったことがありますので、前回、青梅市の文化が非常に大切との話がありましたので、今日もそのへんの御意見を伺えればと思っていたのですが。</p>
(会長)	<p>文化施設というよりも青梅市の特産品や名産品も含めて、文化について、イメージを出し合ったり、そういったことの中で、まちの駅が入ったりするのはいいと思います。そういったことも踏まえ、今、青梅に住んでいる方はまちの見りよっくのこういった部分をもっと打ち出していったいいのではないかと、リアリティのある話を皆様方からいただければいいと思います。</p>
(委員)	<p>案外、そこに住んでいる方々は自分たちが内側に持っている魅力や可能性に気づかない傾向があって、自分たちからしたらそれほどのものではないと感じているものでも、外の人から聞くと面白い話が結構あると思うんですよ、先ほど2代目が頑張っているとの話も非常に興味がありますし、会長がおっしゃったように人を洗い出すといったようなことも必要ではないかと思えます。</p>
(委員)	<p>会議所の人間としてこちらに伺っていて、会議所との立場で周辺の諸</p>

団体から今回の御意見をお聞かせいただくわけですが、皆さんがお話しする夢のある話や、文化というような空気が伝わってくるような希望は出ておりませんで、一番最初にも申し上げましたが、東青梅周辺は西多摩に一つしかない施設、官公庁が多いので、どちらかというと言庁街のイメージが強いです。例えば青梅税務署があってその関連民間団体10団体くらいあります。法人会だとか関税会だとか納税協力会などがあり、それぞれが、総会をやったり周年行事をやったりします。そうするとどちらかという文化よりは事務的なスペースがほしいと、西多摩の官公庁街をイメージしてそういった意見が出てきます。

(委員)

まち全体で商工会の加盟されている方または、商店街がマーケットをやるようなことはありますか。

(委員)

旧市街でおうめマルシェなどをやっていますが、旧市街は古いまちなのですが、どこでもそうですが、まちが大きくなると手狭になって大きな施設ができないかたら、消防署も警察署も河辺にきたり、銀行も東青梅にきたり、今は小さいものが残っている。機能的には河辺や東青梅きてしまい、地法を見ても大体そうですが、隣町の方が大きくなってしまふ。そういった意味で東青梅、河辺地区の発展はあるのですが、そのときに事業者的には事務的な機能を求めています。関係諸団体の仕事ができる場所がほしい。そういった意味では福祉センターは有機的に使われていましたが、現在はコロナの関係で難しいと思います。

(会長)

今の御意見も貴重だと思います。そういったものはまちの礎を築いているのだと思いますので、企業の利用も含めて議論していきたいと思ひます。

(委員)

先ほどサーカスバザールのご紹介をさせていただきましたが、商工会の方で新しくできる施設で広場もあればいろいろな機能も備えているとなると、そこで、例えばサーカスや大道芸をやってそこにマーケットを開くようなことをやったとしたら、商工会の方も賛同してくれるものですか。

(委員)

賛同してくれると思います。現状では、アンケートではないですが、どのようなものを望みますか、希望しますかイメージしますかというところで、お聞きするので、現在の福祉センターの機能が欲しいとの意見になります。ホールといってもコンベンションホールのようにパーティーができたりとの意見が出ますので、このような形で懇談会のような場を設ければ、皆さんがおっしゃるような図書館と何が一緒になった方がいいとか、普通の人も集められ、楽しく時間を共有するものがあつたほうがいいとの意見

<p>(会長)</p>	<p>も当然出るとは思いますが、現状では会議所が聞く時点で機能的な意見しか出ません。</p> <p>青梅固有の文化といえるかわかりませんが、空気や雰囲気というようなものがあって建物などの構築物の中に持たせたい、活用したい。青梅らしさがあれば多くの市民にいろいろな意味で愛されると思います。</p> <p>提案なのですが、少し映像だとか、写真を見るとイメージが沸くのかと思います。サーカスだとかバザールのイメージがわかる写真を数点持ってきていただいたり、市民委員の方からは青梅らしいものを商品でもいいですし、ちょっとした親子の会話でもいいですし、もちろん具体的な提案でも構いません。そういったものを持ってきていただいて、専門家の方には文化施設のうまくいっている例や、建築の中身で例えば平土間方式でも様々なものがあって茅野市のホールは平土間式ですが、2階席をうまく使って様々な使い方ができるようになっていたり、駅に近く使いかってがいいとか。可能な方はパワーポイントのようなものにしていただければ映してみんなで共有できると思います。事務局と相談して正式に呼びかけたいと思いますので、御協力お願いします。</p> <p>時間がきましたので、今日はこの辺までと思います。</p>
<p>(会長)</p>	<p>(2)その他について事務局より何かありますか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>事務局ではとくにございません。</p>
<p>(会長)</p>	<p>皆様からございますか。</p>
<p>(委員)</p>	<p>一つ提案なのですが、この会議の場をたまぐーのホールをお借りしてできませんか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>事務局にて検討して対応いたします。</p>
<p>(会長)</p>	<p>(4 その他) 他にございますか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>本日もそれぞれのお立場から積極的にご発言いただきありがとうございます。青梅市の新市民ホールにおきましては先に行ったアンケート調査、これがあるのは事実ですが、そのほかにいろいろな御意見をいただき、市議会でもホールに限定してはございませんが、特別委員会が設置されておりまして、議会からもより多くの意見を丁寧に聞いていくようにと、そのようなことからこの懇談会が設置されておりまして、昨年12月の</p>

市議会の中でも一般質問を頂戴しておりまして、市長の答弁の言葉を紹介させていただきますと、「芸術文化の価値を十分に認識した上でございますが、ホールを含む諸事業用地の利活用事業につきましては、施設の維持管理や大規模改修等も見据えて将来、市にとって足かせとなることなく、多くの方から本当にあって良かったと思っただけのような市民の意見や市議会の指摘などを真摯に受け止め慎重かつ綿密に検討を重ねてまいります。」そのように答弁をしております、まさにこの懇談会がその一つとなっております。この懇談会の意見は市長も重きを置いて、自分の判断の糧にすると言っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。1回目、2回目と会長のご配慮により幅広い意見をいただき、次回につなげていただいていると思っております。途中、資料等の指摘もいただきましたが、今後、より一層の具体的な御意見、専門的な立場での御意見を含めましていただければ、事務局としても努めてまいります。5回程度の開催とのお話もさせていただきましたが、それで足りなければ、ずっとやるわけにも行きませんが、各委員様の御意見からも最終的な回数も決めていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひ致します。本日は誠にありがとうございました。

(会長)

それでは閉会を副会長お願ひします。

(副会長)

この懇談会はそれぞれの立場を代表して参加する委員が懇談することになるので、私たちは外部の専門家として加わっていますが、今回も含めて市長が期待なさっているような青梅市に必要な施設あるいは計画に対する様々な角度からの意見が十分に2回分あつまっていると思います。今後はこれをベースに更に議論を深めて皆さんで最後に市長に渡せるものをつくればよいなと思ひました。今後もどうかよろしくお願ひします。